

向日町競輪場 基本構想

令和5年12月

京 都 府

向日町競輪場基本構想

<u>1 現状・課題</u>	1 頁
(1) 収益面	(1 頁)
(2) 施設・設備面	(1 頁)
(3) サービス面	(1 頁)
<u>2 車券売上・収支の見通し</u>	1 頁
(1) 基本的な考え方	(2 頁)
(2) 再整備による影響	(2 頁)
(3) 今後の見通し	(2 頁)
<u>3 持続可能な競輪事業に向けた取組</u>	2 頁
(1) 経営改善	(2 頁)
(2) 来場者の確保	(3 頁)
(3) 活性化・イメージアップ	(3 頁)
(4) ギャンブル依存症対策	(3 頁)
<u>4 競輪事業の継続に必要な施設の再整備</u>	4 頁
(1) 再整備後の新たな競輪場のコンセプト	(4 頁)
(2) ゾーニング	(5 頁)
(3) 競輪事業の継続に必要な施設の再整備の考え方	(6 頁)
(4) 想定事業費	(8 頁)
(5) スケジュール	(8 頁)
(6) 整備手法	(9 頁)
(7) 関係法令への適合	(9 頁)
(8) 各種配慮	(9 頁)
<u>5 余剰スペースの活用</u>	9 頁
<u>6 参考資料（向日町競輪場の状況）</u>	10 頁

向日町競輪場 車券売上及び単年度収支（実績・見直し）

向日町競輪場基本構想

「向日町競輪場基本構想」は、「向日町競輪事業の今後のあり方に関する基本的な考え方」（令和5年2月）を踏まえ、競輪事業の継続に必要な施設の再整備を実施することを目的として策定するものである。

1 現状・課題

(1) 収益面

平成25年度と令和4年度的車券売上を比較すると、競輪業界全体（179%）と比較して、向日町競輪場は高い伸び率（198%）となっているが、令和4年度的車券売上は全国平均（258億円）を下回る状況（228億円）にあり、施設の再整備に伴う特別競輪の誘致や魅力向上により車券売上向上の余地があるものと考えられる。

経費については、構造的にその多くが競輪業界で統一されており、経営努力による節減の余地は大きくないが、施設・機能の集約化により、一定の節減効果を見込むことができる。

(2) 施設・設備面

耐震基準を満たさない投票所や大規模改修が昭和61年度以降行われていない競走路（バンク）など、施設の老朽化が他の競輪場と比較しても著しく進んでいる。また、バリアフリー対応や空調設備の整備が十分できていないなど、観戦環境の整備も不十分である。

観戦・投票施設は、来場者数に対して過大な規模で、かつ広範囲に分散しており、場外発売時にも開放エリアが限定できていないなど、来場者にとって利便性が低いだけでなく、運営も非効率となっている。

選手宿舎は、相部屋（4人部屋）であることから感染症対策に十分対応できておらず、浴室が男女共用となっているなど女子選手への対応もできていない。

なお、開催本部や審判施設等は、それぞれ妥当な規模となっている。

(3) サービス面

観戦施設について、ゴール前は全て屋外席となっている。また、屋内席は、本場での記念競輪開催時のみ開設されている。

屋外の観戦エリアや投票施設が多く、映像提供・空調設備等の整備も不十分で、主要な駐車場は隔地にあるなど、来場者にとって利便性が低い状況となっている。

また、場内案内について、案内図に閉鎖箇所などの明示がなく、動線の説明もないなど、新規来場者に対するサポートが不十分な状況となっている。

2 車券売上・収支の見通し

競輪業界全体の全国的な傾向等を分析した上で、再整備に伴う向日町競輪場での

競輪開催の休止等の影響等も勘案し、向日町競輪場の今後10年間における車券売上及び収支について推計した。

(1) 基本的な考え方

車券売上については、中長期的には人口減少の影響を受けるものの、今後10年間程度はインターネット投票による車券売上に下支えされることで、大幅な減少はないものと想定される。

また、収支については、インターネット投票による車券売上の比率が増加したことにより、来場者数の減少やミッドナイト競輪など無観客開催でも収益化が可能な仕組みに変容しており、今後、インターネット投票の普及による来場者数の減少傾向等が継続したとしても、一定の収益が維持されるものと想定される。

なお、収支の算定に当たっては、一般会計への繰出、施設整備基金への積立などの経費は見込んでいない。

(2) 再整備による影響

ア 再整備期間（令和10年度まで）

再整備期間は、解体工事や埋蔵文化財調査、建築工事を実施するために、向日町競輪場での競輪開催を休止し、他の競輪場を借り上げて競輪を開催することとなるため、借上を行う競輪場との兼ね合いによる開催日数の減や借上費用の発生が見込まれ、車券売上及び収支は減少すると想定される。

イ 再整備後（令和11年度以降）

新施設での競輪開催により本場での車券売上の増加を見込む一方で、人口減少等の影響も勘案し、車券売上は全体として横ばいになると想定される。

なお、施設・機能の集約化や運営の効率化により支出の最適化が図られることになるが、今回の収支見通しでは、集約化等に伴う経費減は反映していない。

(3) 今後の見通し

再整備による影響を踏まえた推計結果は、別添「向日町競輪場 車券売上及び単年度収支（実績・見通し）」のとおりであり、再整備期間は、年間車券売上200億円程度、単年度収支4億円程度、再整備後は、年間車券売上220億円程度、単年度収支9億円程度となった。

3 持続可能な競輪事業に向けた取組

向日町競輪場における競輪事業が持続可能なものとなるよう、競輪事業の社会貢献の取組の周知、競輪をはじめとする自転車競技の魅力発信を通じて、府民の理解促進を図るとともに、経営改善、来場者の確保、活性化・イメージアップ、キャンセル依存症対策などのために必要となる取組を実施する。

(1) 経営改善

収入の確保及び経費の見直しを図るため、次のような事項について検討し、取組

を進める。

＜収入の確保＞

- ・ 開催時間帯の見直し（モーニング競輪・ナイター競輪の検討）
- ・ 特別競輪の誘致
- ・ ネーミングライツの導入

＜経費の見直し＞

- ・ 施設・機能の集約化
- ・ 場外発売時の対応の見直し（開放エリアの限定 など）
- ・ キャッシュレス化

(2) 来場者の確保

来場者の確保を図るため、次のような事項について検討し、取組を進める。

- ・ 入場料の無料化（現状：本場開催時50円）、特別観覧席料金の見直し（現状：1,150円）
- ・ サービスの向上（交通アクセス、各種案内 など）
- ・ 飲食スペースの充実（家族連れや若者を意識した外観・内装・メニュー、カフェ・キッチンカーの誘致 など）
- ・ 競輪非開催時の有効活用（地域イベントの開催 など）
- ・ 観光資源化（競輪体験ツアーの企画 など）

(3) 活性化・イメージアップ

競輪事業の活性化及びイメージアップを図るため、次のような事項について検討し、取組を進める。

- ・ 地元選手の紹介（紹介パネルの設置、関連イベントの開催 など）
- ・ 自転車競技の振興（サイクリストの拠点、聖地化 など）
- ・ 地域・企業との連携（協賛レースの開催 など）
- ・ 自転車関連イベントの開催（バンクリーグの開催 など）
- ・ 自転車関連事業者の出店（サイクルグッズの販売 など）

なお、競輪業界の取組として、新規ファンの獲得に向け、アニメを活用した魅力発信や新たなロゴの展開、新CMの制作・放映等によるガールズ競輪のブランディング強化等が行われている。

また、向日町競輪場においても、バンク走行体験や競輪選手との交流などのサイクルイベント、BMXの練習施設である「サイクルパーク京都」でのBMX体験会などの開催等により、自転車競技の魅力発信、自転車競技の競技者層の拡大を図っている。

(4) ギャンブル依存症対策

公営競技（競馬、モーターボート、競輪、オートレース）においては、公営競技間の連携を図り、広告宣伝の抑制、ギャンブル依存症に関する普及啓発の推進、アクセス制限の強化等のギャンブル依存症対策を、公営競技業界を挙げて実施してい

る。

また、競輪業界においては、ギャンブル等依存症対策推進基本計画（令和4年3月25日閣議決定）に基づき、購入限度額システムの導入などギャンブル依存症対策を実施している。

向日町競輪場においても、ポスター・チラシの掲示、場内放送の実施などの啓発活動や、年齢確認による未成年者の車券購入防止などの基本的な対策を引き続き実施する。

＜参考：令和4年度に実施された競輪業界の主な取組＞

※ 「競輪・オートレース業界の現状と課題」（第18回産業構造審議会製造産業分科会車両競技小委員会（令和5年5月24日開催）資料）から引用

○ 購入限度額システムの導入

- ・ 利用者本人の申請に基づき、インターネットによる車券等の購入の上限額を設定し、特定期間内において設定上限額を超える車券等の購入ができなくなるシステム
- ・ 1日当たりの上限額を100円単位で設定が可能。一度設定すると180日間は解除できない。
- ・ 競輪業界においては、令和4年度内に、公式サイト及び全ての民間ポータルサイトにおいて、購入限度額システムの導入が完了

○ 競輪の広告・宣伝指針の策定

- ・ 射幸心をあおる内容(※)は使用しないこと等を規定
(※当たりやすい、儲かる等を過度に強調する表現等)
- ・ 各媒体における留意事項
媒体(テレビ、ラジオ、新聞、雑誌、ポスター、インターネット等)ごとに注意事項の表示に際して留意すべき点(※)を規定
(※注意事項は明瞭に視認できる大きさで表示する等)

○ ギャンブル依存症対策研修会の開催

- ・ ギャンブル依存症の知識の向上や理解を深めるため、定期的に研修を実施
- ・ 直近では令和5年2月に開催し、施行者のほか、場内関係者、場外車券売場、民間ポータルサイト、包括委託業者等の関係者が参加した。

○ 競輪場等におけるATMの撤去

- ・ 競輪場及び場外車券売場における全てのATMを撤去

4 競輪事業の継続に必要な施設の再整備

(1) 再整備後の新たな競輪場のコンセプト

自転車^{サイクル}を通じて、交流・賑わい^{サイクル}が循環する競輪場

① 安全・快適で、コンパクトな競輪場

～ 来場者・利用者が安全・快適に利用でき、効率的な運営が行える競輪場 ～

- 来場者・利用者の安全性が確保された、安心・安全な競輪場
- バリアフリー対応、映像提供・空調設備などが整備された、快適な競輪場
- バンク、選手宿舎などが機能強化された、競技環境が整った競輪場
- 来場者数を踏まえた施設・機能の集約化が図られた、コンパクトな競輪場

② 自転車競技関係者や自転車愛好家が集う競輪場

～ 自転車を通じた、スポーツ振興・人材育成・交流の拠点となる競輪場 ～

- 高校生、大学生などの競技会の開催や合宿・練習の実施など、自転車競技の振興や人材育成の場としての競輪場
- バイク走行体験、子ども向け自転車競技会、サイクルイベントの開催など、自転車に親しむ機会が提供され、自転車愛好家が集う場としての競輪場

③ 地域と共生する競輪場

～ 競輪非開催時にも多くの府民が訪れ、交流・賑わいの拠点となる競輪場 ～

- 近畿高等学校自転車競技大会など大規模な競技会、サイクルフェスタなど自転車関係イベントやKARA-1グランプリなど地域イベントの開催により、地域住民をはじめ多くの府民が来場する競輪場
- 集約化に伴い生じる余剰スペースが、その立地の良さを活かし、スポーツ活動・防災の拠点などとして整備されることで、地域の交流・賑わいの拠点となる競輪場

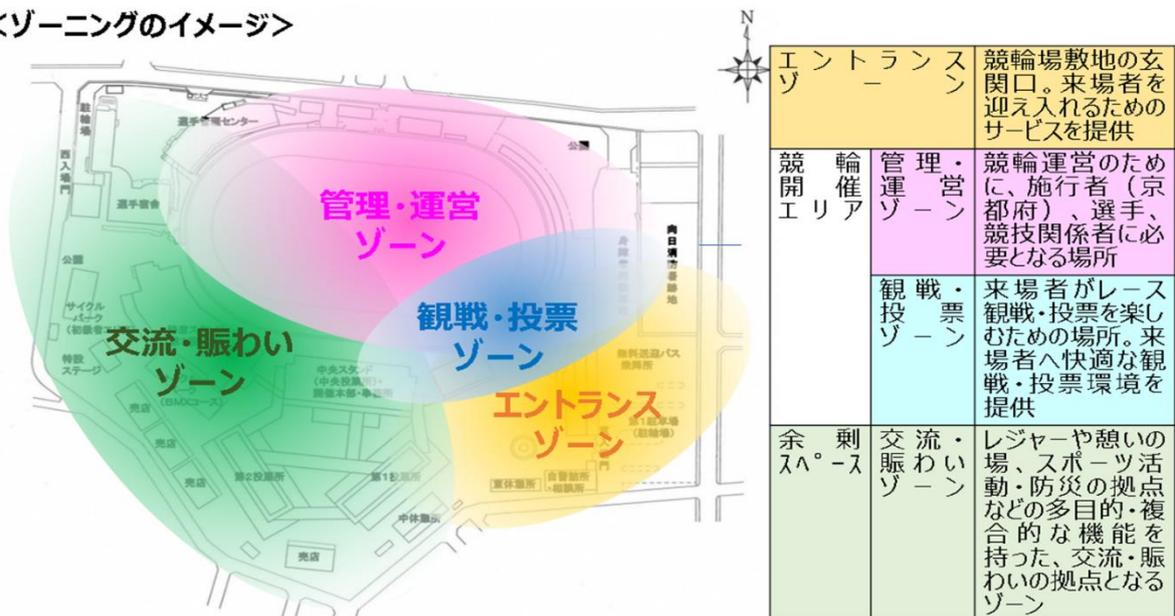
(2) ゾーニング

再整備に当たっては、前述のコンセプトを踏まえ、競輪場敷地全体を、「エントランスゾーン」、「管理・運営ゾーン」、「観戦・投票ゾーン」及び「交流・賑わいゾーン」にゾーニングをした上で、各ゾーンにまたがって点在する老朽化が著しい施設を除却し、競輪場敷地内の全面的な再整備を実施する。

バンクやスタンドなど競輪事業の継続に必要な施設・機能については、車券売上・収支、来場者数の見通しや他の競輪場の事例等を踏まえ、施設・機能の集約化を行った上で、「管理・運営ゾーン」及び「観戦・投票ゾーン」に集中的に配置する。

競輪事業の継続に必要な施設の配置を行わない余剰スペースについては、「交流・賑わいゾーン」として整備を実施する。

<ゾーニングのイメージ>



(3) 競輪事業の継続に必要な施設の再整備の考え方

ア 競輪事業の継続に必要な施設の再整備

インターネット投票による車券売上の増加や無観客で行われるミッドナイト競輪の開催による来場者の減少、開催時間帯や車券販売方法の工夫といった事業のモデルチェンジによる車券売上・収支の大幅な改善など、競輪事業を取り巻く環境が大きく変化していることを勘案しつつ、向日町競輪場の来場者数の見通しを踏まえ、競輪事業の継続に必要な施設の再整備を実施する。

具体的には、老朽化が著しい施設について解体・除却を実施することで、安心・安全の確保を図るとともに、来場者数を踏まえた施設・機能の集約化を行い、新しい観戦スタイルなどに対応した施設の再整備を実施することで、来場者に対するサービスの向上、選手・競技者の競技環境の改善及び運営の効率化を図る。

区分	対象施設・機能	方向性
過大（低利用）施設	観戦・投票施設 （中央スタンド等）	施設・機能の集約化 観戦施設：4箇所→1箇所 投票施設：6箇所→2箇所 サービスの向上（観戦・投票環境の改善） 運営の効率化（配置等の見直し）
老朽化施設 （必要施設）	バンク、照明施設、 選手宿舎	競技環境の改善（競技の公正安全の確保、スポーツ性の向上、感染症対策、女子選手への対応）
	集計センター、事務所、 審判施設等	運営の効率化（配置等の見直し）
老朽化施設 （不要施設）	耐震基準を満たさない 施設（第4投票所等）	安心・安全の確保（解体・除却）
その他の施設	場外発売時車券投票所	サービスの向上（投票環境の改善）、運営の効率化 （開放エリアの限定による運営コスト削減）
	選手管理センター	現状維持（将来的に移転・新築）
	入場門、囲い、駐車場 等	交流・賑わいの拠点となる施設への転換 （囲いの形状変更、緑地帯の整備、動線の整理など）

<参考：観戦スタイルに対応した施設の再整備（イメージ）>

- ・ インターネット投票を通じて競輪に関心を持つようになった新しいファン層が実際に来場し、レースそのものをリアルで楽しめる観戦環境（Wi-Fi環境など多様なニーズに対応した観客席、バンク周辺の臨場感あふれる観戦ゾーンなど）の整備
- ・ 従来からのファンも楽しめる、映像提供・空調設備等が整った、車券投票を主たる目的とする施設（場外発売時車券投票所）の整備

イ 再整備後の施設の規模

(ア) 考え方

全面的な施設の再整備を実施している玉野競輪場及び広島競輪場を参考に、向日町競輪場の来場者数の状況及び交通アクセスの良さ等の立地条件を考慮し、両競輪場の中間の規模に設定することを基本とする。

特に、来場者数に対して過大な規模となっている観戦・投票施設は、実績及び

再整備による効果も踏まえた来場者数の見通しを基に、施設の規模を設定する。

<参考：全面的な施設の再整備を実施している競輪場>

	玉野競輪場	広島競輪場
整備目的	今後も競輪事業において安定的に収益の確保を図るために、民間の資金、経営能力及び技術的能力を活用し、競輪場の再編整備を実施	老朽化した競輪場を自転車によるスポーツ・レジャー等のニーズに対応する複合的な施設に再整備
立地	岡山県玉野市 (R2 国調人口 56,531 人)	広島市 (R2 国調人口 1,200,754 人)

(イ) 来場者数に対応した施設の規模

平均来場者数の実績を基に、観戦・投票施設であるスタンド及び場外発売時車券投票所で受け入れる来場者数（施設収容人数）をそれぞれ、1,000人、500人程度、観客席数をそれぞれ、500席、100席程度に設定する。

<参考：来場者数及びスタンド（向日町競輪場は、場外発売時車券投票所を含む）の規模>

	玉野競輪場（再整備済）	向日町競輪場（想定）	広島競輪場（再整備後）
平均来場者数 (R4)	490 人／日	885 人／日	1,174 人／日
スタンドの収容人数・観客席数（収容人数の内数）	1,162 人収容 314 席	約 1,500 人収容 約 600 席※	約 4,700 人収容 770 席

〔 ※（内訳）スタンド 収容人数：1,000人、うち観客席：500席
場外発売時車券投票所 収容人数：500人、うち観客席：100席 〕

なお、屋外での観戦を含めた「観戦・投票ゾーン」全体で受け入れる一日当たり最大の延べ来場者数（収容人数）は5,000人に設定し、同一時間帯に滞留する最大の来場者数が3,500人（一日当たり最大の延べ来場者数の70%）とした場合、前述のスタンドで1,000人、場外発売時車券投票所で500人を受け入れるとともに、屋外テラスやバンクとスタンドの間の立ち見スペースで2,000人程度を受け入れることにより対応する想定である。

ウ 主要施設の再整備

(ア) バンク

大規模改修することにより、競走の公正安全、選手・競技者が安心して走ることのできる環境の確保を図る。

併せて、スピード感のあるレースや自転車競技場としての各種競技会の誘致・開催などスポーツ性の向上を図るためのバンクの仕様の見直し、地元イベントの開催などバンク内の敷地の活用についても検討する。

(イ) 選手宿舎

新築することにより、個室化や女子選手に対応した設備の整備を実施することで、競技環境の改善を図る。

(ウ) スタンド

複数の建物に分散していた観客席などの集約、来場者数を踏まえた適正な規模への見直しの上、新築することにより、来場者に対して、快適な観戦・投票環境を提供するとともに、配置等の見直しにより、運営コストの削減を図る。

(I) 場外発売時車券投票所

他の競輪場で開催されている競輪の車券発売のための施設を、スタンドとは別に、スタンドに近接する位置に新築することにより、広範囲に分散していた投票施設を集約し、場外発売時の開放エリアを限定することで、運営コストの削減を図る。

(4) 想定事業費

他の競輪場の状況や本構想でこれまで示してきた再整備の考え方を踏まえ、競輪事業の継続に必要な施設の再整備に要する想定事業費は、現時点において、70～80億円程度と想定するが、多額の事業費となることから、引き続き精査を行う。

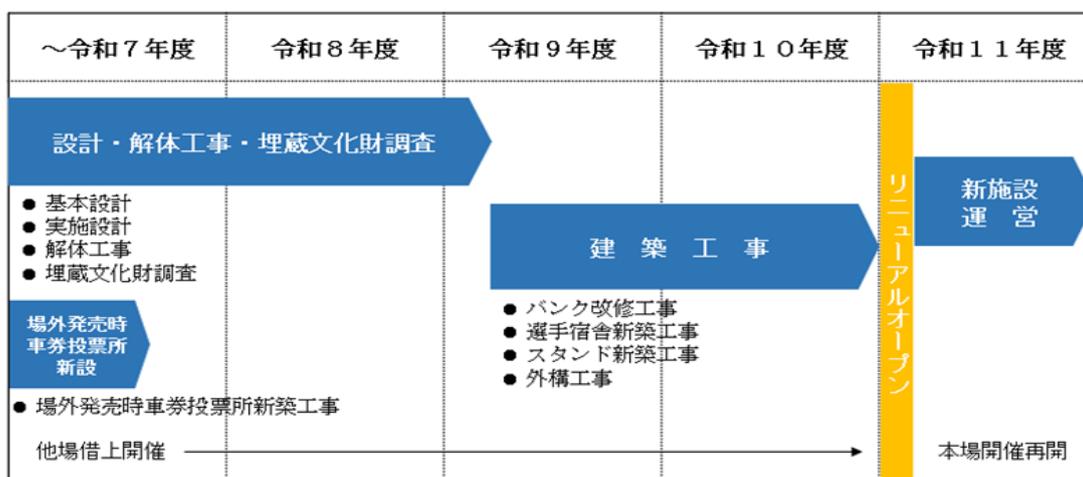
なお、再整備に当たっては、施設整備基金などを可能な限り活用するとともに、資金調達能力や豊富な経営ノウハウなど民間事業者の強みの活用なども検討する。

(5) スケジュール

以下の考え方を踏まえ、下表のと通りのスケジュールを想定する。

<考え方>

- 令和10年度までを再整備期間とし、令和11年度にリニューアルオープン。
- 既存施設の解体工事終了後、埋蔵文化財調査を実施し、その後各種の建築工事に着手。中央スタンドを解体するまでに場外発売時車券投票所を新築し、場外発売を継続。
- 再整備期間は、他の競輪場を借り上げて競輪を開催。
- 全面的な再整備で、解体工事及び埋蔵文化財調査などに時間を要することが想定されるため、令和6年度からの整備着手も検討し、早期の完成を目指す。



(6) 整備手法

施設の再整備を実施している他の競輪場の事例を踏まえ、コスト縮減、早期の整備着手、民間資金の活用、運営事業者のノウハウの活用などの視点で整理するとともに、民間事業者から意見聴取などを実施し、今後、具体的な整備手法を決定する。

再整備の実施時点では、施設整備基金など活用可能な資金が限られることから、再整備に要する事業費の一部については、整備手法に対応して府又は民間事業者において新たに確保する必要があるが、整備手法に対応した財源の手当てとして、再整備後において毎年度確保されると見込まれる単年度収支を活用する。その活用に当たっては、一般会計への繰出、施設整備基金への積立とのバランスに留意する。

<参考：整備手法に対応した財源の手当て（単年度収支の活用）のイメージ>

- ・ 府が資金を確保する場合：地方債の償還 など
- ・ 民間事業者が資金を確保する場合：施設使用料の支払 など

(7) 関係法令への適合

再整備する施設は、自転車競技法や建築基準法、向日市まちづくり条例その他関係法令等に適合するものとする。

(8) 各種配慮

再整備する施設は、来場者が安全かつ快適に利用できるよう、ユニバーサルデザインや受動喫煙防止に十分配慮するとともに、緑地の確保や隣接する住宅地への緩衝帯の設定など、景観・環境面に十分配慮する。

また、向日町競輪場は、指定緊急避難場所及び指定避難所に指定されており、備蓄倉庫が設けられていることから、引き続き防災面に配慮する。

併せて、引き続き地域住民に親しまれる施設となるよう、再整備に当たっては、地域住民の利用に十分配慮する。

5 余剰スペースの活用

競輪施設・機能の集約化により、競輪開催エリア（「管理・運営ゾーン」及び「観戦・投票ゾーン」）は、競輪場敷地全体の4割程度と見込まれる。

集約化に伴い生じる余剰スペースは、「交流・賑わいゾーン」として整備を実施し、レジャーや憩いの場、スポーツ活動・防災の拠点などの多目的・複合的な機能を充実させる。

具体的には、競輪施設との相乗効果、賑わいの創出、府内のスポーツ施設の状況などを踏まえ、屋内スポーツ施設として活用を検討する。

なお、向日町競輪場を競輪開催の場としての機能だけでなく、地域と共生する競輪場として、地域の交流・賑わいの拠点へと転換するに当たっては、「交流・賑わいゾーン」への来場者の動線を明示的に確保する。

また、緑地等の確保、防災機能、周辺環境への影響、地域住民の利用などに十分配慮する。

6 参考資料（向日町競輪場の状況）

(1) 車券売上等の状況（令和4年度）

車券売上額	227.3億円（全国29位）
（参考）	234.1億円（全国19位）※令和3年度
インターネット車券売上額	78.7%（全国22位）
収益額	9.4億円（全国14位）※令和3年度
収益率	4.02%（全国18位）※令和3年度
一般会計繰出金累計額	17億円（全国6位）※平成28年度～令和3年度

(2) 運営・体制及び開催区分（令和5年度）

包括民間委託	実施（平成29年度～）
モーニング競輪	未実施（全国28場で実施）
ナイター競輪	未実施（全国26場で実施）
ミッドナイト競輪	実施（全国28場で実施）
年間来場者数	32,139人（全国22位）※令和4年度（本場開催時）
購入単価	8,500円（全国20位）※令和4年度
施設整備基金	令和4年度設置（全国36場で設置）

※ 開催区分

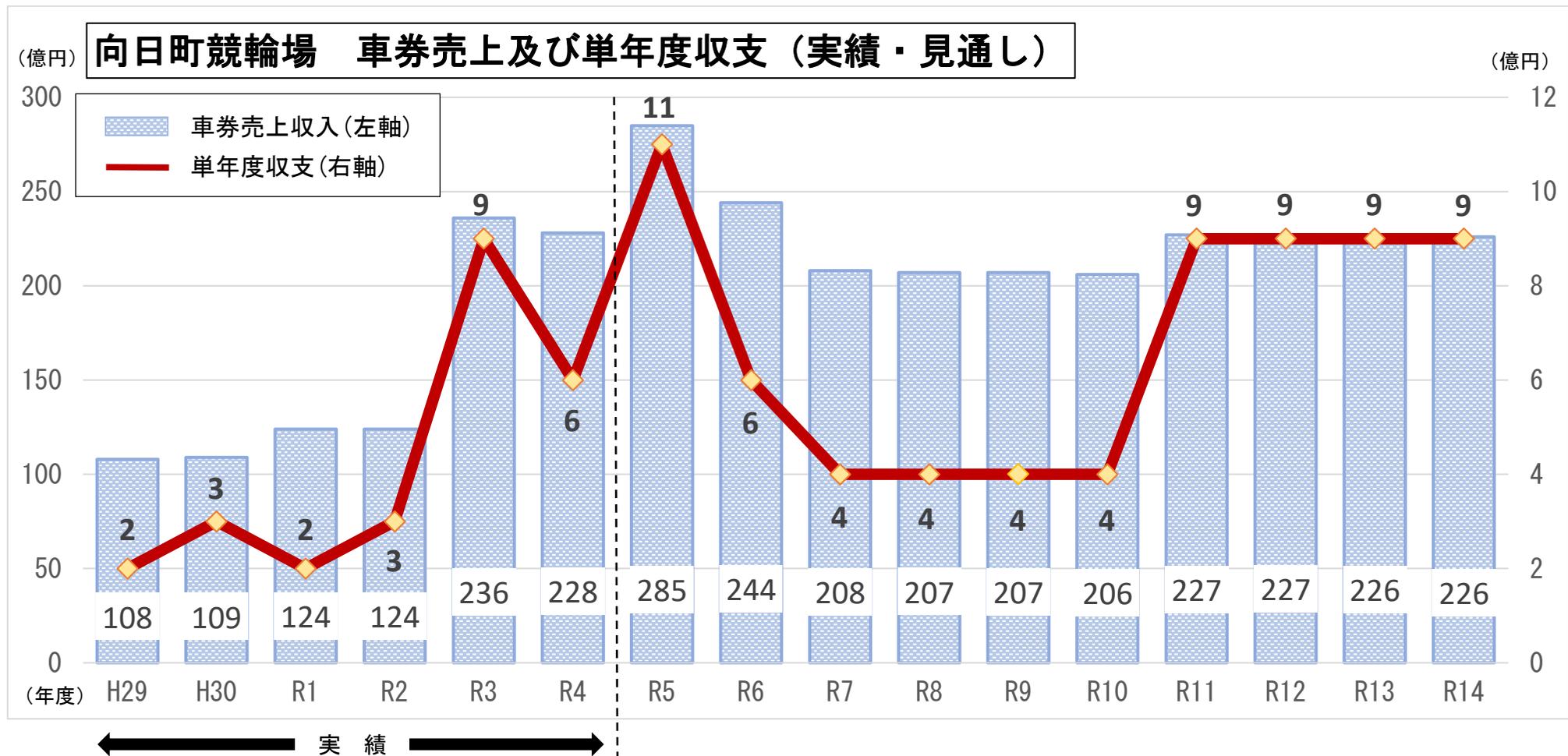
モーニング競輪	9時頃～14時30分頃
昼間	11時頃～16時30分頃
ナイター競輪	15時30分頃～20時30分頃
ミッドナイト競輪	21時頃～23時30分頃。無観客

(3) 立地・敷地の状況

敷地面積	56,434.88m（全国17位）
行政財産（全国）	普通財産：29、行政財産：10、混在：2、民間：2）
都市計画	近隣商業地域（建ぺい率：80%、容積率：200%） 特別用途地区（娯楽・レクリエーション地区）
土地形状	場内全体が西から東に傾斜。敷地の有効活用には整地が必要

(4) 施設の状況

バンク	昭和61年度以降、大規模改修未実施 （平成以降に大規模改修が未実施の競輪場は、向日町以外は2場のみ）
投票所	第2・4・5投票所は閉鎖中
場外・サテライト車券売場	未設置（全国30場で設置）
前売・早朝投票所	未設置（全国34場で設置）
駐車場	大部分が敷地外で、分散しており、利便性に課題
選手宿舎	平成4年建築で、全国で11番目に古い



【車券売上】

○中長期的には人口減少の影響を受けるものの、今後10年間程度はインターネット投票による車券売上に下支えされることで、大幅な減少はないものと想定される。（令和5年度は、施設整備協賛競輪の臨時開催により大きく伸長）

【単年度収支】

○インターネット投票による車券売上の比率が増加したことにより、来場者数の減少やミッドナイト競輪など無観客開催でも収益化が可能な仕組みに変容しており、今後、インターネット投票の普及による来場者数の減少傾向などが継続したとしても、一定の収益が維持されるものと想定される。

【再整備による影響（再整備期間：令和10年度まで）】

○向日町競輪場での競輪開催を休止し、他の競輪場を借り上げて競輪を開催することとなるため、借上を行う競輪場との兼ね合いによる開催日数の減や借上費用の発生が見込まれ、車券売上及び収支は減少すると想定される。